

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 央福社会	代表者	上田 幸生	法人・事業所の 特徴	法人理念である「やさしい気配り 親思う 慈しみの心」を基本に、利用者一人一人が自分のペースで過ごせるよう、利用者の声を大切にし、主体的に過ごせるよう対応している。利用者の変化にも、すぐ気づき対応できるようスタッフ間の連携を図り情報交換・共有に努めている。 また、当ホームは、法人の理事長が元々住んでいた場所でもあり、名前も屋号からである。そういった部分を活かしながら、地域の行事にも積極的に参加している。また、ホーム内にて地域つどい事業を開催し、地域住民との交流を図り、地域に根付いていけるよう取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能ホーム かめやん家	管理者	中川 佑治		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	2人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	本人との関わりはもちろんのこと、家族との関わり、自宅での生活状況・様子等をもっと知り、在宅生活が長く継続できるようにしないといけない。そのためにも、利用者の日頃の様子を良く知り、モニタリングやケアプランについても、各利用者の担当スタッフを中心となり、ケアマネジャーと一緒に関われる形を今後も作っていく。また、月に一度のミーティングだけでなく、日々の中で、カンファレンスや担当者会議等、開催し、情報共有できる時間も作っていく。	利用前から家族や利用者から情報を得てスムーズにサービスへ入っていくことに努めている。スタッフのモニタリングへの同行は、あまりできていないが、担当者中心にサービス担当者会議等の開催により、家族の声を聴く機会を増やしている。	勤務の兼ね合いで、職員間で情報を共有するのは難しいと思うが、ケースやノートを活用し情報共有に努めていただきたい。利用前の情報の共有について重点をおいているので、スムーズな利用につながると感じた。勤務上可能であれば、複数の職員で初回の面談もしていけたらいいと思う。	引き続き、職員間での情報共有に努めていく。新規利用者に対しても、利用前からスムーズにサービスに入れるよう配慮や複数での面談をし、様々な視点から情報収集していきたい。利用にあたり、ひとりひとりの利用者の生活スタイルに合わせた支援ができるよう過去の過ごし方や生活歴を情報収集し取り組んでいきたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、いつ誰がきてもきれいな事業所と提供いただけるよう、外から見られているという意識を常に持ち、ホームの内外ともに掃除し清潔感のある事業所づくりをしていく。自由意見にもあった、もう少し入りやすい見学しやすい環境づくりが必要と言う意見を受け止め、どうすればもっと入りやすく居心地が良い環境になるのか、つどいや運営推進会議において地域の方の意見を参考に改善していきたい。	ホームの取り組み等により、地域の方からも入りやすい雰囲気であるとの意見が多かった。引き続き入りやすい相談しやすい雰囲気や環境づくりをしていく。	いつもきれいに清掃をしておられ、玄関も入りやすい雰囲気になっている。家庭的な雰囲気や、利用者も過ごしやすい環境になっていると思う。地域の方にもなじみのある事業所であり、訪れやすい環境である。ただ、常にオープンにしていって入りやすいが、時間帯によってはスタッフの方が忙しいのか玄関で待つことがある。世間でも虐待が増えており、虐待の防止に努めていると思うが、もっと研修等で学ぶ機会が必要である。	引き続き、清潔を意識し入りやすい雰囲気や居心地の良い環境づくりに努めていきたい。時間帯によっては、スタッフは忙しく、来客対応が不十分になってしまうこともあるが、スタッフ間の声かけや連携を図り、スムーズに対応できるようにしていく。また、虐待や身体拘束、不適切ケアについて学ぶ機会を多くし、これらが利用者の心身へ影響が大きく関わる事を理解しケアにも活かしていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>前年度同様、職場体験の受け入れは継続していきたい。また、つどいも定着してきているので、今後も継続していきたいが、その中で、多様な世代の方に利用してもらえる内容を検討し実施していきたい。現状、サロンや喫茶、その他の地域行事にスタッフの人数の問題で、参加が難しくできていないことがあるため、参加できるようシフト調整していく。</p>	<p>地域行事への参加も増えている。また、職場体験の受け入れも継続できている。防災会議や夜警等の参加にて地域との関わりも増えてきている。</p>	<p>職場体験の取り組みを今後も続け、福祉の仕事の魅力を発信していただきたい。地域で毎月実施されているサロンや喫茶等へできるだけ参加もされている。これからも事業所が地域の一員として、日常的な交流をお願いしたい。ただ、スタッフの人数の兼ね合いもあり、相談等の対応は常時、難しいのではないかな。</p>	<p>引き続き、つどい事業や職場体験の取り組みを継続していく。そうする事で福祉の仕事の魅力を発信し、また、かめやん家をもっと知ってもらえる機会とする。スタッフはつどい以外にも、地域の方との交流やおあいすることもあるので、挨拶はもちろんの事、事業所が地域の一員や地域資源の一部になるよう、日常的な交流をしていきたい。その中で、地域の方の変化があれば、地域包括支援センターの方と協力し支援につなげていきたい。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>利用者だけでなく、スタッフと地域の方々との交流も出来てきている。近所の方々と会った時に挨拶はもちろんだが、会話等で見つけられる変化に気づき、早めに関わっていけるようにしていく。地域の高齢化もすすんでいるため、地域包括支援センターとの連携にて、地域全体を支えていけるよう少しずつでも取り組んでいきたい。Cと同様、地域行事はスタッフの人数の兼ね合いで参加できていない事もあるため、シフトや業務等を調整し、なるべく参加できるようにしていく。</p>	<p>まだまだ地域包括支援センターとの連携にて地域全体を支えていくまではできていないが、かめやん家と関わる地域の方の変化には気づけるようスタッフ間で情報共有している。地域行事への参加も増えてきている。</p>	<p>利用者の方とともに、地域行事に積極的に参加されている。また地域の方で利用されていない方にも積極的に関わっていただき、今後も継続してほしい。地域の事をよく理解もされ地域の方にも良く知られていると感じる。利用者の方が今まで過ごしてきた地域で長く生活が継続できるように努めていただきたい。他の地域の利用者がその地域での行事やイベントへ参加はないが、かめやん家の地域の行事に参加はされており喜ばれている。</p>	<p>現在は、かめやん家がある地域行事の参加や交流しかできていないが、南巽や田島の方等も利用者がおられる為、利用者の希望や必要性に応じて、かかわりや連携ができるよう準備していきたい。事業所が地域資源として地域の方々に必要なとされる事業所になるよう、利用者以外の心配な方々がいたら、地域包括支援センターと連携し協力していきたい。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>一時期、スタッフも参加できていたが、現在、スタッフの参加ができていない。スタッフも参加する事で、家族や地域の方の声等、直接聞く機会にもなるので参加できるようにしていく。また、意見を言える利用者も増えてきているため、利用者の参加やより開かれた施設になるよう地域住民の参加もアプローチし促していきたい。</p>	<p>地域住民は参加してくださっているが、スタッフの参加ができていないことが多い。また利用者の参加もできていない。</p>	<p>都度、会議のたびに話をし、問題提起のあったものについては最終的にどのように対応したのかを話している。勤務上の都合で難しいとは思いますが、他の職員も参加して頂きたいと思う。家族からも意見を求めたり、地域の方からも活発に意見が出ており、意見交換の場になっている。ボランティアの受け入れを積極的にしてもらえると、もっと活気が出ると思う。</p>	<p>運営推進会議に管理者以外の職員が参加できるように、地域の声を聴ける場になるようにしていきたい。地域からのボランティアの受け入れや防災等の様々な課題に対しての話し合いの場となるよう運営推進会議を活用し、意見を聴いたりしながらすすめていきたい。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>つどい等を通じて、地域の方にもホームでの消防訓練や防災訓練に参加してもらい、地域と共に防災について考える場になれるようしていきたい。また、今後、グループホームとの併設施設ではなくなることから、単独事業として、防災マニュアルの見直しをする必要がある。区役所の防災担当の方の協力を得ながら、勉強し訓練し、都度、見直していきたい。4月～ホーム長が地域の防災リーダーの役割になったので、地域の防災会議や訓練に積極的に参加し、より連携を取れるよう取り組んでいきたい。</p>	<p>防災マニュアルや備蓄品の見直しをしたり、勉強会の開催等も実施している。ホーム長やスタッフが地域の防災リーダーとして会議にも参加し協力体制を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム長が防災リーダーをかねておられるため、事業所の機能を上手く使いながら、地域での防災に取り組んでいると思う。防災マニュアルを整備し、消防署指導による避難訓練を実施していると思うが、非常時に地域住民に協力が得られるような関係作りをもっとはどうか。泊まりで利用の際の、災害が起きた場合の対処法等を教えてほしい。</p>	<p>防災マニュアルは作成しているが、色々な場面を想定した内容になるよう、都度、見直しをしていきたい。また非常時に地域住民に協力が得られるよう、ともに消防訓練を実施できるような協力体制を築いていきたい。引き続き、防災リーダーとして地域の防災力向上に協力できるような意見交換をしていく。現在、消防訓練や防災等の勉強会・マニュアルの見直し等を実施しているが、家族の方とどう連携や連絡をとっていくのか、ともに考える場を作りたい。</p>
----------------------------	---	--	--	---